

きのこ

1 培養室内の換気

需要が最も多くなる時期を間近に控え、どの生産施設もフル稼働の状態にあると思います。

きのこの菌糸生育は空気中の酸素を吸収して、二酸化炭素と熱を排出します。二酸化炭素濃度が高いと菌糸の呼吸が制限されて生育に影響する恐れがあるため、換気（換気扇や熱交換器を使って二酸化炭素を室外へ排出し、新鮮な空気を室内へ取込む管理）が重要です。また、栽培施設内に取り込んだ新鮮な空気を部屋の隅々まで行き渡らせる工夫も必要です。

培養室内の収容ビン数の増加は、二酸化炭素の排出量も多くなるため、収容ビン数に応じて換気量の調整が必要となります。クーラーの風は室内の空気を循環させる働きもありますが、この時期は夏場に比べてクーラーの稼働回数が減少することで生育障害が発生する可能性があります。また、菌糸の呼吸により放熱されるため、空気の循環が悪くなると室内に熱がこもり、培地ビン内の温度の上昇による発生不良や減収の原因となります。空気の循環は、培養ビンからの放熱を促すためにも必要です。

対策としては、①空クーラーや循環扇等の使用により積極的に空気の循環を促しましょう。②培養室に栽培ビン詰め込み過ぎると空気の循環は滞りがちになるため、パレット間や壁との間隔を十分にとるとともに、収容ビン数を過剰に入れることを避けます。ただし、常時、過剰な風が吹いている環境は、菌床の乾燥など逆効果となる場合もあります。きのこの状態をよく観察し、循環扇等の風量、風向き、稼働時間を調整しましょう。

培養室内の空気の流れ（循環）をつくる目的は、

- 培養ビンに新鮮な空気を供給し、二酸化炭素濃度の上昇を防ぐ。
- 培養ビンの異常な温度上昇を防ぐ。

2 地震に備えた対策

大きな地震が起これば、きのこ施設にも被害が発生します。日頃から地震に対する意識を持ち、施設や管理方法を見直しておきましょう。

特に、培養ビンの荷崩れには注意が必要です。コンテナ単独の棒積みは、揺れにたいへん弱い状態です。

培養室では、パレット上に積み上げるコンテナ数をできるだけ減らしてパレットを重ねるようにすると、被害の軽減が図れます。パレット上にコンテナを2×2に配置して積み上げている場合は、最上段の4つのコンテナをベルトやフレームにより固定すると、コンテナは一体化され、比較的安定した状態になります。

可能であれば、途中の段も同様に固定すると、より安定します。

生育室では、生育棚の倒壊を防ぐため、梁や突っ張り棒で補強すると効果的です。また、棚上段へのコンテナの集中は、バランスが悪くなるので、コンテナを棚に均等に配置するように心がけましょう。

